天狗の里 ぶぜんの歴史・文化財

静かに、ゆっくりと流れる時間。
この街はどこか懐かしくもあり、新鮮でもある。
伝統と歴史が今も大切に受け継がれている、
この街の「心にふれる歴史散策」してみませんか？

蔵春園

◎県指定史跡

江戸時代後期、漢学者の恒遠醒窓によって開かれた私塾。門下生には三千人にも及び豊前地域の学究のメッカでした。

求菩提山

◎国指定史跡

平安時代末期、「一山五百坊」と言われた修験山で、天台宗求菩提山護国寺を中心に多くの山伏達が山中に住み、厳しい修行に挑み、英彦山と共に豊前修験道の中心を担いました。山中には、構の石門、みそぎ場、五窟、護摩場跡などの修験道遺跡が多数点在します。また麓の求菩提資料館には、山から出土した数々の修験道に関わる遺品が展示され、当時の文化をうかがう事が出来ます。

求菩提資料館

県立の資料館で山岳宗教のメッカとよばれる求菩提山の修験道遺品を展示しています。国宝銅板法華経（レプリカ）をはじめ、仏像、神像、古文書文書など二千点近くを収蔵、展示しています。また黒田官兵衛直筆の「桜狩の歌」などの貴重な史料も所蔵しています。

岩洞窟

◎国指定史跡求菩提山（岩洞窟地区）

求菩提山の修験者は、窟の中に籠り自らを肉体の極限にさらす事で法力を得、加持祈祷を行うことによって人々を救おうと考えました。厳しい修行場の窟の天井に描かれる飛天は、修験者達の極楽浄土を表現し、如来の教えをたたえることを意図するのかもしれません。

大羅迫の滝

修験道文化の史跡が今なお残る犬ヶ岳から流れる岩岳川の清流は、四季折々の姿を見せ、源流部の山中には人知れぬ景観が多数点在しています。登山道から見える大羅迫の滝は標高800mに位置し、高さ5m程の落差で、絹地を敷いたような優美な姿を見せてくれます。その風景は、かつて修験道の厳しい修行の場であった険しい景色とは違う風情をみせています。

銅板法華経

◎国宝

求菩提山中の普賢窟より出土されたと言われる銅板法華経は、末法の時代、仏法が滅びゆくことを案じ、銅板に、法華経8巻、般若心経を刻み後世に伝えようとしたタイムカプセルです。出土した洞窟を母の胎内に見立て、またいつの日にか生み出してもらうことを願って埋経したものと考えられています。銅板経33枚と4面に阿弥陀三尊、釈迦と多宝の二如来、不動明王、毘沙門天が線刻された銅筥とが完全な形で出土されたのは全国でも稀で、きわめて貴重な文化財です。

大日如来像

◎県指定有形文化財

平安時代後期に作られた木造大日如来坐像で、求菩提山の大日窟に安置されていたものです。大日如来は密教の世界の絶対的な真理で、密教が想定した二つの世界である胎蔵界と金剛界の中核とされます。森羅万象の生命の根源であると言われ「光り輝き、遍く照らす」の意味を持ち、金剛界大日如来とは金剛石の様に硬く、迷いのために損なわれない事を表わします。

如法寺

◎国指定史跡求菩提山（如法寺地区）

求菩提山護国寺の末寺の一つとして、写経所の役割を担いました。また、求菩提山の北東方角に位置し、山門には金剛力士像（県指定有形文化財）が置かれ、悪魔や邪霊が入らないよう「鬼門封じ」としての役割も果たしていたといいます。戦国時代には、宇都宮氏滅亡と共に焼失しましたが、江戸時代に黄檗宗の寺院として復興され、現在では蓮の花が有名となり蓮寺とも言われています。

鬼の石段

昔、犬ケ岳に棲む鬼達が大変な乱暴者で、村に下りてきては、作物をあらしたり、米や家畜、農作物を盗んだりと悪さばかりしていました。みかねた求菩提山の権現様は鬼達の悪業を逆手にとって、朝一番鳥が鳴くまでに千段の石段を築くよう言いつけます。鬼達は必死に石段を築きあげ、残りわずかまできたところで慌てた権現様が一番鳥の鳴きまねをすると、鬼達は朝がきたと思い込み一目散に逃げて行ったと言われています。今でも中宮から上宮の間には鬼が築いたという850段の石段が続いています。

千手観音立像

◎国指定重要文化財

樟材による一木造りで像高211.2cmの大きさをほこり、平安時代後期でも早い時期に作られたものと思われます。顔は張りが強く、切れ長の目に小振りの鼻、唇が表現され全体的に童顔にまとめられています。昔、母乳の出が悪い母親がここの湧水でお粥を炊いて食べたところ、よく出るようになったという伝説から、別名「乳の観音」とも呼ばれています。